

橘木俊詔『新しい幸福論』岩波新書、2016年、102-103頁

Harrod-Domar の経済成長理論（要旨）

マクロ経済における国民所得 Y

国民所得の増加分 ΔY = 経済成長の分

国民所得の増加率 = 経済成長率 $G = \Delta Y / Y$

I = 実物投資量 = 資本の増加量,

S = 貯蓄 (= 国民所得 - 消費量)

$I = S$ これがケインズの基本式。 事後的には貯蓄は投資にまわる

なぜなら消費量を C 、実物投資を I とすると、 $Y - C = S$, $S \rightarrow I$

～ 今期の国民所得（純生産量）の一部は実物投資に使われて次期の経済成長へ

$I / Y = S / Y$ ←両辺を Y で割る

$\Delta Y / \Delta Y \cdot I / Y = S / Y$ ←左辺に $\Delta Y / \Delta Y = 1$ を乗じる

ΔY と Y を入れ替えて、

$\Delta Y / Y \cdot I / \Delta Y = S / Y$ ……(*)

$I / \Delta Y$ は、 ΔY を生産するのに必要な資本の増加量 = 実物投資量。資本係数と呼ぶ。

$I / \Delta Y = c^{\wedge}$ と書くと、式(*)は、

$\Delta Y / Y \cdot c^{\wedge} = S / Y$ ……式(**) ここで本書では ' $/Y$ ' が消えている。

$\Delta Y / Y = G$ であり、 ←上記の経済成長率の定義による

$S / Y = s'$ と書くと、

s' は国民所得のうち貯蓄 = 投資に向けられる部分の割合。貯蓄率と呼ぶ。

式(**) により、

$G \cdot c^{\wedge} = s'$ つまり $G = s' / c^{\wedge}$

この含意は、 G は s' が高いほど、 $c^{\wedge}$ が小さいほど、高い。

以上